



# 浦建築研究所

文：吉岡大輔(アリンコラボ) 絵：笠間理夏子(AMD)

地域のデザインを人間の姿形とすれば、意匠は筋肉や造形、構造は骨格、設備は臓器などにあたる。見せかけだけにとらわれてしまうと、いつしか人間も建物も健全な状態ではいられなくなる。

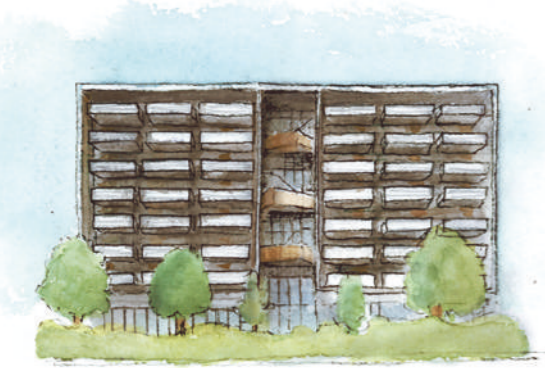
一級建築士20余名をはじめ、意匠・構造・設備の各専門家を擁する浦建築研究所は、建築設計をトータルサポートする「組織設計事務所」である。地震に対する備え、環境への優しさ、過剰しやすさ、人への思いなどさまざまな要素が整合された「バランスの良い建築」とは何であるかを考えながら、60年の長きに渡り、多種多様な設計活動に取り組んできた。建物をつくる際は幾度となく議論を交わし、模型やCGを駆使しながらシミュレーションを重ねる。そうした綿密な計画により生まれたカタチが、やがてクライアントの想像を超えた新しい「夢」とつながっていく。カタチと夢、この二つを結ぶ術こそが、まさに浦建築研究所が目指す「設計」なのである。

各分野のエキスパートが結束した、美しく合理的な建築づくり



本年度、第41回建築士事務所全国大会 小規模建築部門・奨励賞を受賞した「尾山神社授与所」

地域や時代のリズムを読み解き、町並みや工芸に溶け込む建築を創り出す



東京事務所を手掛ける、文京区の「白山プロジェクト」

東京事務所を開設。北陸での設計ノウハウを生かし、国内外に活躍の場を広げる

近年、海外から多くの設計事務所が参入するなど、日本の建築業界にグローバル化の波が押し寄せる中、浦建築研究所は2012年に中国・大連に共同出資で現地法人を立ち上げ、2016年に子会社化。2015年には東京事務所を開設し、グローバル社会における地域の在り方を模索しながら、国内外に設計活動の領域を広げている。その糧となっているのが北陸特有の厳しい自然条件に培われた建築技術に対する自信と誇りだ。高い湿度、寒暖差、降り積もる雪。どんなに建築に不利な環境下でも、スタッフが一丸となってより良い建築づくりに取り組んできた。

また、浦建築研究所の代名詞ともいえる風土や歴史、地域性を生かした建築。その土地が持つ力を読み取りデザインとする手法も一つのアイデンティティとなっている。理にかなった建築を丁寧につくる技、地域性や場所を読み解く力。一朝一夕の所産ではないこれらのノウハウがローカルを拠点とする浦建築研究所のグローバル社会への新たな挑戦につながっている。

古いものを生かし、新しいものを創り出す 工芸建築の在り方を日々追求

昔から工芸と建築は密接な関係性にあつた。たとえば金沢市寺町にある辻家庭園。由緒正しい武家屋敷街に佇むこの建物には、繊細な彫刻が施された欄間やラビラスリに彩られた色塗壁など、意匠を凝らしたさまざまな設えが現代に残されている。偉大な作家・七代小川治兵衛が手がけた芸術性の高い庭園も、建物の格調を高める大きな要素になっている。この建築をリノベーションする際に浦建築研究所が考えたのが、建築は時に脇役に徹することだ。それによって建築の中に工芸を組み込む親和性や一体感が生まれることを狙った。この考え方は金沢西病院の陶板壁画プロジェクトでも実施され、石川県を代表する工芸作家らが手がけた巨大な陶板作品を建築の内装として空間に取り込んだ。

工芸家と建築家が同じ意識の中で、古いものを継承しながら時代に合わせて新たなものを創造する。そうした試みも、建築をいわば一つの工芸として考える「工芸建築」をクリエーションするためには欠かせない。アートプロジェクトや地域のキュレーションなどを通じてさまざまなまちづくり活動を行う株式会社ノエチカの運営など、地域に根付いた文化事業にも積極的に取り組む浦建築研究所にとって、「工芸」と「建築」の関係性を考えることは、大きなテーマとなっている。



リノベーションされた「辻家庭園 群青の間」



工芸 × 建築の可能性を探る

# 「工芸建築」展



金沢21世紀工芸祭

金沢21世紀工芸祭とは

金沢21世紀工芸祭は、工芸のまち金沢が開催する工芸フェスティバルです。「郷土食彩」「工芸回廊」「金沢みらい茶会」「金沢みらい工芸部」「金沢アートスペースリンク」「工芸建築」展、「国際工芸シンポジウム金沢」、「KOGEIトーク」の8つのメインコンテンツで、工芸を通じて金沢の魅力を発信します。

About KANAZAWA 21st CENTURY KOGEI FESTIVAL is a large-scale arts and crafts festival hosted in Kanazawa, the city of arts and crafts. This festival will present Kanazawa's arts and crafts through 8 main contents: "Shuzen Shokusai", "Kogei Kairo", "Kanazawa Mirai Chakai", "Kanazawa Mirai Kogeiibu", "Kanazawa Art Space Link", "Kogei Architecture" exhibition, "Kogei International Symposium in Kanazawa", "Kogei Talk"

Official website

金沢21世紀工芸祭公式WEBサイト

金沢21世紀工芸祭 検索

<http://21c-kogei.jp/>



お問い合わせ：金沢21世紀工芸祭実行委員会 TEL:076-223-3580 (平日 9:00~18:00)

# 「工芸建築」展

## “KOGEI architecture” exhibition

「建築を、ひとつの工芸として考える」。このテーマに、工芸作家や建築家が多彩なプレイヤーが応じる初の展覧会。伝統と革新が呼応し合い独自の文化を発信する金沢から「工芸建築」が生み出す新たな可能性を提案する。  
 “Considering architecture as a KOGEI (craft).” The first exhibition put on by artists, architects, and various other players in response to this theme. From Kanazawa, where tradition and innovation act in concert to transmit a unique culture, we propose new possibilities born through “KOGEI architecture”.

2017.11/07 (Tue) - 11/19 (Sun)  
 10:00 ~ 18:00 ※会期中無休 ※最終日は 17:00 まで  
 ※Exhibition will close at 17:00 on final day.

入場無料 Admission Free

金沢 21 世紀美術館 市民ギャラリー B1・B3 (石川県金沢市広坂 1-2-1)  
 21st Century Museum of Contemporary Art, Kanazawa People's Gallery B1・B3(1-2-1 Hirosaka, Kanazawa)

総合監修・秋元雄史氏に聞く。  
**「工芸建築」とは？**



秋元 雄史  
 Yuji Akimoto

東京芸術大学大学美術館館長・教授 /  
 金沢21世紀美術館特任館長  
 Director & Professor, The University  
 Art Museum, Tokyo University of the Arts /  
 Chief Executive Director of  
 the 21st Century Museum of Contemporary Art,  
 Kanazawa

### Q.工芸建築とは何でしょうか？

金沢では「工芸建築」という話をここ2年ぐらいしています。かといって、何か結論めいたものが出ていたり、何か形になっていたりするわけではなく、ただ「工芸建築」という言葉を真ん中において、みんながその周りでいろいろな言葉を発しているという状況です。実は私自身も、何か論理立ったものを積み重ねて「工芸建築」と言っているわけではありません。言葉として離れている「工芸」と「建築」を、とりあえず2つ取り上げながら、その間をいろいろな人の知恵を借りてつないでいこうという「試み」だと捉えてください。

### Q.なぜ金沢でこういった試みを行うのでしょうか？

金沢は九谷、輪島など数多くの工芸の産地を近くに抱え、また京都に次いで工芸が地場産業としても盛んなところ。そういった背景から、金沢では改めて工芸と向き合っていく機会を持つことができたということがあります。その中で、工芸の現代的展開を考えよう、という時に、「工芸」のこれまでのイメージみたいなものを一旦分解して自由にさせ、現代アートやデザインだけでなく、建築とも結びついていけば新しい可能性を展開できるのでは、という考えで始まっていったのです。

### Q.工芸建築というものがどのような可能性をもたらすのでしょうか？

今は工芸の市場そのものが非常に厳しいということがあります。80年代、90年代と比較すると、市場規模は1/10や1/20といわれるぐらいです。厳しい状況下、今回の試みで工芸の別の可能性が開くんじゃないかということも期待としてあります。この「工芸建築」で工芸と言っているものは、非常にアグレッシブで自らを解体することをいとわないような動きとしての工芸であり、「工芸建築」という試みはイマジナリな自由さというものを工芸の中にもう1度持ち込んでいくのではないかと思います。ここでいう工芸は出来上がった形や作品ではなくて、工芸的な取り組みや、もっと言えば材料や技法のことです。美意識的な面もありますが、それ以上に工芸的な技法や材料への興味ですし、その現代的な展開が見たいのです。工芸も時代ごとに進化しているように、いまの時代の姿を見たいのです。

# Artist & Architect

参加作家



緒方 慎一郎  
 Shinichiro Ogata  
 デザイナー Designer

1998年、SIMPLICITY設立。「現代における日本の文化創造」をコンセプトに、自社ブランドとして和菓子店、和食料理店、プロダクトブランドを展開。建築、インテリア、プロダクト、グラフィックなど多岐にわたるプロジェクトにおいて、デザインやディレクションを手がける。



山下 保博  
 Yasuhiro Yamashita  
 建築家 Architect

1960年奄美大島生まれ。芝浦工業大学大学院修了後、設計事務所を経て1991年に独立。都市の狭小住宅にてar+d世界新人賞グランプリ、英国LEAF Awards 3部門最優秀賞、日本建築家協会賞、日事連建築賞、ARCASIA金賞受賞はか多数。震災の復興を支援するNPO法人理事長、九州大学非常勤講師も務める。



浦 淳  
 Jun Ura  
 建築家 Architect

1966年金沢市生まれ。大阪工業大学工学部建築学科卒業後、大手建設会社を経て、1993年(株)浦建築研究所入社。現在、同社及び(株)ノエチカ代表取締役、日心企画(大連)有限公司董事長、認定NPO法人趣都金澤理事長。



小津 誠一  
 Seichi Kozu  
 建築家 Architect

1966年金沢市生まれ。武蔵野美術大学建築学科卒業後、建築設計事務所、等を経て独立。2003年E.N.N.を設立後、金沢R不動産、飲食店などを立ち上げ、2012年より金沢を拠点に建築、不動産、飲食などのチームを率いて活動。



坂井 直樹  
 Naoki Sakai  
 金属造形作家 Metalwork Artist

1973年、群馬県生まれ。2003年、東京藝術大学大学院博士後期課程鍍金研究室修了、博士学位取得。2005～08年、金沢卯辰山工芸工房にて研修。2013年～金沢卯辰山工芸工房専門員。現在、金沢市内にて制作活動を行う。



中村 卓夫  
 Takuo Nakamura  
 陶芸家 Ceramic Artist

1945年金沢市生まれ。父・中村梅山に師事。銀座・和光ホールをはじめ個展多数開催。NYメトロポリタン美術館、シカゴ美術館、金沢21世紀美術館など収蔵多数。



三代・西村 松逸  
 Syouitu Nishimura III  
 漆工 Urushi Artist

金沢市生まれ。祖父・初代西村松逸、父・二代松逸に学び、人間国宝 大場松魚氏に師事。2000年頃より公募展等への出品をやめ、その後日本工芸会(正会員)を退会。たおやかさと新しい表現を求め模索。竹取・平家・源氏物語、古事記などの古典をテーマとした制作も行う。



眞壁 陸二+HIPSQUARE  
 Rikuji Makabe+HIPSQUARE  
 画家 Painter

1971年金沢市生まれ。多摩美術大学油画専攻卒。ペイスギャラリー(東京)、トライアンプギャラリー(モスクワ)、等で個展。近年は瀬戸内国際芸術祭、奥能登国際芸術祭など家全体を作品化させるプロジェクトに関わる。



宮下 智裕  
 Tomohiro Miyashita  
 金沢工業大学環境・建築学部准教授 Associate Professor Kanazawa Institute of Technology

1968年静岡県生まれ。南カリフォルニア建築大学(SCI-Arc)修士課程修了後、芝浦工業大学大学院工学研究科において博士(工学)号を取得。現在、金沢工業大学環境・建築学部建築デザイン学科准教授。専門は構法デザイン。



村本 真吾  
 Shingo Muramoto  
 漆造形家 Urushi Artist

1970年白山市生まれ。東京藝術大学大学院美術研究科漆芸を修了し金沢卯辰山工芸工房で研修を行う。ギャラリーを中心に個展、展覧会多数開催。近年はイタリア、スイス、モナコなどアートフェアを中心に海外で発表。韓国、シンガポールなどコミッションワークも行う。フィラデルフィア美術館、ミネアポリス美術館など収蔵多数。



吉村 寿博  
 Toshihiro Yoshimura  
 建築家 Architect

1969年鳥取県生まれ。横浜国立大学大学院修了。1995-2004年妹島和世建築設計事務所・SANAA勤務。金沢21世紀美術館の担当時に金沢の魅力に引き込まれ、2004年東京より金沢に移住し吉村寿博建築設計事務所設立。

### 「工芸建築」展記念トーク

## 「工芸建築の魅力と可能性について」

11月17日(金) 19:00~21:00 要予約

会場/ Fusion21(金沢市広坂1-2-1 金沢21世紀美術館内)  
 参加費/ 一般4,000円(飲食込み)  
 定員/ 80名  
 モデレーター/ 秋元雄史・金沢21世紀工芸祭総合監修スピーカー/ 「工芸建築」展参加作家

### 【お申し込みの流れ】

- 1、金沢21世紀工芸祭公式WEBサイト(<http://21c-kogei.jp/>)にアクセス
- 2、TOPページに表示しているカレンダーから「工芸建築」展記念トークを選択するか、「工芸建築」展コンテンツページ内の予約ボタンをクリック
- 3、申し込みフォームに必要事項を記入の上、お申し込みください

### お電話でも受け付けております

金沢21世紀工芸祭実行委員会(株式会社ノエチカ内)  
**TEL:076-223-3580** (平日9:00~18:00)

協賛

株式会社総合資格 株式会社 The Art of Travel あらや滔々庵 石黒建設株式会社  
 有限会社エッグ 有限会社E.N.N. 株式会社表組 北川ヒューテック株式会社 兼六建設株式会社  
 株式会社サンテン・コーポレーション 城東建設株式会社 株式会社トーケン 株式会社豊蔵組  
 株式会社長坂組 真柄建設株式会社 松井建設株式会社北陸支店 株式会社丸西組  
 みづほ工業株式会社 名工建設株式会社北陸支店